

平成 29 年度青少年「平和と交流」支援事業 ヒロシマ平和セミナー 平和首長会議プログラム レポート

松本市総務部情報政策課 主事 永田 太郎

1 研修で学んだこと

広島市が取り組んでいる平和行政は、「世界初の核兵器が使用された都市」という歴史を活かした、本質的で、世界に向けて大きな影響力を持つものでした。

その一端に触れ、学んだことは以下のとおりです。

- (1) 真の平和実現や社会の変革に向けて、個人や地方公共団体ができることはあまりにも小さく、非力であること。
- (2) それでも他者との共通項を見出し、対話を重ねて想いを共有し、共通項を醸成することが平和に資すること。
- (3) 対話を実現するためには、漠然としたイメージにとらわれない本質的な考え方を身につける必要があること。
- (4) 広島市が以上を踏まえ、堅実な平和行政を実施していること。
 - ア 為政者（平和行政の上層部も含む）が政治や時代の本質や背景を熟知しているため、行政運営の本質的なかじ取りができています。
 - イ 平和首長会議や「迎える平和」により、世界各地の自治体や為政者に核の廃絶への願いという共通項を見出し（または創出し）、地道な対話を重ねている。
 - ウ (3)を解決するために、広島平和研究所を設置し、行政では言及できない政治の分野においても、本質的でアカデミックな考え方の醸成に尽力している。